

# 令和4年度 府中市立住吉小学校学校経営報告

府中市立住吉小学校  
校長 木下 和紀

本校は、第3次府中市学校教育プランに基づき、「他者も自分も大切に作る、思いやりと規範意識のある人」「社会の一員としての自覚を持ち、社会に貢献しようとする人」「自ら学び考え行動する、個性と創造力豊かな人」の育成を目指し、「学力の向上」「安心・安全な学校づくり」を重点課題とし、「府中型コミュニティスクール」「小中連携」など地域連携協働の取組を通して、その解決に当たることを経営方針としてきた。以下新型コロナウイルス感染症への対策を講じながら実施した今年度の各取組と保護者アンケート及びスクールコミュニティ協議会による評価、さらに令和5年度に向けた方策を示す。

## 1 今年度の主な取り組みと保護者アンケート及びスクールコミュニティ委員会による評価

### (1) 学力・体力の向上

#### ①基礎・基本の定着

- ・ベーシックドリルタイム（BDT）の定期的な実施。年間20回。
- ・地域と連携して放課後算数教室による補習、やり直し学習の実施。年間16回。
- ・家庭学習の充実として「住吉毎日10分運動」（学年×10分）の実施。
- ・タブレットの毎日持ち帰りによる、家庭でのEラーニングの実施。

#### ②教師の授業力の向上

- ・授業評価（年間3回指導略案、授業公開）の実施。管理職による指導の実施。
- ・若手教員研修（4年次まで）の実施。年間6回の実施。
- ・タブレットの効果的な活用のための研修の実施。年間2回実施。

#### ③学校全体の体力づくりを推進

- ・持久走旬間の実施
- ・年間を通しての縄跳び集会の実施

#### <保護者アンケート>

- 1 学校は個に応じた指導や基礎・基本の徹底等、学力の向上のための工夫・改善に努め、楽しい授業をしている。（習熟度別指導、放課後算数教室、BDT、通級指導、学習支援員の活用 など）

【肯定的評価（よく当てはまる+やや当てはまる）86%】

- 2 学校は、ICT機器を効果的に活用し、児童の学習活動に活かしている。（タブレット指導 など）

【肯定的評価（よく当てはまる+やや当てはまる）77%】

- 3 学校は、体力の向上や健康の増進に取り組んでいる。（縄跳び旬間、体育朝会、保健指導、食育 など）

【肯定的評価（よく当てはまる+やや当てはまる）84%】

＜スクールコミュニティ協議会の評価＞ ○：肯定的評価 ●：課題と提案

#### 学力向上

○地域の方々のご協力で授業終了後の算数教室の再開は学力向上に大変役立っているというデータが出ていて、コロナ以前（約10年前くらい）からの積み重ねの大きさを思いました。

○放課後算数教室は、核家族の多い中、地域の大人と接点を持ち、地域の方も責任をもって取り組み、学校と地域に連帯感が醸造される。

●タブレットを効果的に活用する工夫

●学力の定着と向上のために、毎日少しでも宿題を出していただけるのは家庭として助かると思います。家庭学習（学年×10分）は家庭によって差が出てしまうとも思うので、学校やPTAなどで家庭への協力の呼びかけをしたりしても良いと思う。放課後算数教室や読書タイムなど継続してできるものがあると家庭でケアできない子供の支援になると思う。

#### 体力向上

●体力の低下について、その理由がコロナの問題だけであるとは思えません。学校の授業だけで体力向上は限界があると思います。家庭内での取組みと日常生活や遊びの中に体を動かす仕組みを考える必要があると思います。他地域での取り組みを参考にする等が良いかと思えます。

●休み時間を利用し、目標設定をして、縄跳び・一輪車・ジョギング等継続して行い、体力向上に繋がると良い。

●なかなか外遊びができず、またしない子が増えている中、縄跳びチャレンジやマラソンチャレンジなど、学校も工夫してくれていると思う。小さな頃の体力づくりは大人になってからの健康にもつながるので、今後も子どもが動きたくなる内容を考えていって欲しいと思う。

#### 読書活動

●児童の読書時間の向上は大きな課題です。普段から本を読む習慣を付ける工夫が、学校でも家庭でも必要だと思います。本を読んで理解する力、本を読んで人として成長する力を身に付ける習慣が必要だと思います。

●読書活動については、読み聞かせボランティアをぜひ復活してほしいと思います。地域の方や保護者の方に読んでもらえると子供たちももっと興味を持ってもらえると思います。

●読書も大切ですが新聞記事等でこれぞと思う話題で話し合いをさせてみる。

#### ＜評価を受けて＞

新型コロナウイルス感染症のために、休止していた放課後算数教室を再開することができた。児童同士の間隔を十分確保するために、今年度は対象人数を絞っての開催であったが、参加児童は毎回地域の方と楽しそうに算数を学習し、算数の理解を深めるとともに算数に対しての苦手意識を軽減できたのは大きかったと考える。今後、地域の方の参加者を増やすとともに、対象児童の数を増やしていき、算数に関する学力の向上を図っていく。また、家庭でのタブレットの効果的な活用を進め、基礎・基本の定着を図っ

ていく。

新型コロナウイルス感染症のため、休み時間における校庭使用を学年別に制限を行うなど、十分な運動の機会を確保できなかったこともあり、体力テストの平均値が東京都及び府中市の平均値よりも低い種目が多い結果となった。そのような中において、体力向上の一環として年間を通しての縄跳び集会や持久走旬間を実施し、学校全体の体力の向上に努めた。今後は、休み時間の校庭使用を緩和することや、家庭での運動の機会を確保することを保護者に呼びかけるなど行い、体力の向上に努めていく。

今年度、読書活動の充実のために、読書旬間を年間3回設定し、読書の魅力を伝えてきた。しかし、新型コロナウイルス感染症のため、地域の方の読み聞かせ活動を再開させることができず、児童の読書活動の充実を十分に図れなかった。次年度に向けて、地域の方との話し合いを進めており、地域の方の読み聞かせを行うことで、児童の読書活動の意欲を高めていく。

## (2) 安全・安心、心の教育

### ①月曜朝会での6年生を中心とした児童発表を実施

### ②生活規律を確立

- ・規範意識、危険回避能力を育てるセーフティ教室の実施（情報モラル、薬物への対応）
- ・テレビ、ゲーム、スマホの使用時間についての指導を実施（利用時間2時間以内）

### ③新型コロナウイルス感染症への対策の徹底

- ・3密回避など、国、都、府中市の方針に基づいた予防対策と情報発信
- ・コロナ関わる人権指導、子供の保護者の心のケア（SC、教育センター、SSWとの連携）
- ・発生した場合の的確、迅速な対処（市教委、保健所、校医等、関係諸機関との連携）

### ④教師の危険予知及び回避能力の向上

- ・安全対策、週案への記入と日直による見回りの徹底
- ・危険箇所の発見、トラブルの早期発見、担任への支援

### ⑤不登校、いじめに対しては、即時、組織的に対応

- ・リソースルームによる不登校対応、個に応じた支援の推進
- ・いじめ防止基本方針に基づき、校内委員会（いじめ対策委員会）による早期解決

### ⑥防災教育を推進

- ・水害対応（府中市防災課との連携）5年生

### ⑦アレルギー対応を推進

- ・対応手順及び緊急時の連絡体制の確認 ・ ・ 緊急対応訓練の実施4月
- ・要配慮児童の共通理解、共通対応（配食及びアレルギー対応等の実技研修）4月

#### <保護者アンケート>

- 1 学校は、防災教育及び防犯、いじめやけがの防止・対策など、子供の安心・安全の教育を進めている。（避難訓練、避難所開設訓練、交通安全教室、セーフティ教室 など）

【肯定的評価（よく当てはまる+やや当てはまる）91%】

- 2 学校は、一人一人の保護者や子供のニーズに応じた教育を進めている。（不登校対応、校内支援、リソースルーム、スクールカウンセラー、連絡帳、ひばり教室との連携 など）

【肯定的評価（よく当てはまる+やや当てはまる）90%】

- 3 学校は、コロナウイルス感染症対策を適切に行い、児童が安全に活動できるよう環境を整えている。（マスク着用・手洗い・消毒の徹底、検温・健康観察カード・スマート連絡帳の活用、ソーシャルディスタンス など）

【肯定的評価（よく当てはまる+やや当てはまる） 90%】

＜スクールコミュニティ協議会の評価＞ ○：肯定的評価 ●：課題と提案

#### 新型コロナウイルス感染症対策

- 工夫をしながらの行事の開催に、中止でなくて「よかった」と思いました。児童たちにとって必ず後に思い出となることでしょう。
- 手洗い・消毒等きちんとされていると思う。給食配膳も当番がビニール手袋をしているので徹底されていると思う。
- クラスター等起きていないので、対策としては良かったと思います。

#### 安全対策

- 学校、自治会等の担当者が変わっても組織的に防災訓練を行えるよう連携を図る。温暖化に伴い、水害対応を強く感じる。地域協働の学校づくりにも関連するが、地域住民・学校生徒たちの災害に応じた危機管理能力を高め、命を守る行動を身に付けたい。
- 変質者・不審者が市内でも多く発生している。遭遇をしてしまった時の対応の指導をお願いしたい。自治会、町会の見守りの方々には1年を通して登下校の見守りをして頂き感謝です。
- 登下校の見守りのボランティアや、地区班の見守り等で安心して学校に通えていると思う。校内にも警備員さんがいて安心します。

＜評価を受けて＞

防災教育として、毎月の避難訓練において、中河原公園への避難を行ったり、児童及び教職員への予告なしで実施したりするなどの工夫を行った。また、3年生が起震車体験を行い、5年生が避難所開設訓練において、水害対応や心肺蘇生法を体験するなど防災意識を高めることができた。また、防犯教育として、全学年の児童が発達段階に応じた内容をセーフティ教室で学ぶとともに、日頃からの学級指導において防犯指導を随時行うことで、防犯意識を高めた。今後は、避難訓練の内容においても、より実践に近い想定を取り入れることで、児童の対応力を高めていく。

新型コロナウイルス感染症対策として、「3つの密の回避」を教育活動において徹底したことから、学級閉鎖となることはほとんどなかった。今後、社会の新型コロナウイルス感染症の対策が緩和していくことに伴い、学校としても安全を確保しながら緩和を図っていく。

不登校対応として、リソースルームによる学校内での居場所づくりを進め、まずはリソースルームに通うことを目指す児童、リソースルームから1日数時間の教室での授業参加を目指す児童、教室での授業を基本としながらもリソースルームで精神的な安定を図る児童など、児童一人一人の状況に応じた対応を行った。

難聴言語学級と特別支援教室の併設校である利点を活かして、校内における特別支援教育の理解を深める研修や講演会を開催した。

### （3）地域との連携

- ①スクールコミュニティ協議会、地域コーディネーターを活用した教育活動の展開
  - ・5年生への南極の話

- ・地域と連携した補習授業の早期再開（放課後算数教室）夏期算数教室の実施
- ②地域の防災拠点としての体制を維持、発展
  - ・地域協働の避難所開設訓練〔防災研修〕・・・10月（5年児童参加）
  - ・スクールコミュニティ協議会を活用した地域防災会議（避難所運営委員会）
- ③学校からの情報発信
  - ・学校経営計画・報告、住吉小だより、ホームページによる情報発信
  - ・保護者会、スクールコミュニティ協議会等での情報発信

＜保護者アンケート＞

- 1 学校は、教育目標や学校教育の内容を分かりやすく伝えている。  
（学校経営計画・報告、住吉小だより、保護者会、ホームページ など）  
  
【肯定的評価（よく当てはまる+やや当てはまる）94%】
- 2 学校は、児童の学習活動の様子などが保護者にしっかりと伝わるように情報を発信している。  
（住吉小だより、学年だより、学級だより、保護者会、ホームページ など）  
  
【肯定的評価（よく当てはまる+やや当てはまる）86%】

＜スクールコミュニティ協議会の評価＞ ○：肯定的評価 ●：課題と提案

地域との協働

- 伝統的に地域の方々の協力が大きな学校と思います。もっとお父様の参加があるとよいですね。
- 月1回のスクールコミュニティで、学校と保護者、地域の方と意見交換をしており、みんなで子供たちのことを考え、学校づくりができていると思う。
- 住吉小は「子どもたちのため」「学校のため」と動いてくれる地域の人たちに恵まれていると思う。これからも地域の方との交流を大切にして、また情報を交換しあいながら、よりよい住吉小作りを目指して行って欲しいと願っている。

情報発信について（学校だより、ホームページなどについて）

- 学校に来られない、見られない保護者にとっては、学校だよりや学年だよりがまさに「頼り」だと思いますので、引き続き、できる限りの発信をお願いしたいです。
- 毎月の学校だよりは楽しみに読ませていただいています。学校行事などがわかるので、駅や住吉文化センター等に児童がいても代休なのだとわかり安心できます。又、作文・スポーツ等、児童達の活躍もわかり、地元も児童の努力に拍手を送っています。
- 学校だより等、紙ベースでの便りが多い。もっとスマート連絡帳やホームページなどを活用してほしい。保護者は紙ベースよりもメールなどの方がレスポンスが早いと思う。
- 学校だよりは毎回楽しみにしている。子ども達の活動や「外部の方からこのような講習をした」「こんな体験をした」という内容や、先生たちの思いが聞ける便りはとても大切と感じている。学校HPの学校ブログも見てみたい。

＜評価を受けて＞

地域との連携として、スクールコミュニティ協議会を年間7回開催し、積極的に学校の情報を発信し、地域に開かれた学校を進めた。また、地域コーディネーターにより、放課後算数教室での地域の方への声掛けを行ったり、外部講師を招聘して5年生の南極の学習を行ったりした。今後は、新型コロナウイルス感染症の対策を取りながら、地域との協働を進めていく。

学校の情報発信として、学校だよりやホームページ等で積極的に発信してきた。また、新聞記事として取り上げてもらえることもあり、広く地域に発信することができた。保護者会においては、新型コロナウイルス感染症対策として、時間短縮と分散開催を行ったために十分な発信は行えなかった。今後、スマート連絡帳の活用、ホームページの充実、保護者会での発信を進めていく。

## 2 次年度の課題と対応策

住吉小の強みを生かして、今年度に引き続き取り組みを進めていく。

### (1) 学力向上にかかわって

#### ①個人差に応じた指導の充実（算数科を重点教科とする）

- ・ベーシックドリルタイム（BDT）を実施する。
- ・地域と連携して放課後算数教室による補習、やり直し学習の対象を拡大する。
- ・読み聞かせを再開し、読書に親しむ機会を増やす。
- ・担任教員の指導の下、学校支援員を活用した個別学習を実施する。
- ・ICTを活用し、一人で繰り返し学習を行えるようにする。
- ・特別支援教育の視点による支援を推進する。

#### ②地域・家庭との連携で進める取組

- ・住吉10分運動の家庭での実施を推進する。
- ・ICTの家庭学習での活用を推進する。

#### ③新学習指導要領への対応

- ・学習環境を整備し、授業のユニバーサルデザイン化を進める。
- ・地域人材を活用したICT教育を推進する。
- ・ICTを活用した授業改善をさらに推進する。

### (2) 安心・安全教育の推進にかかわって

#### ①新型コロナ等感染症への対応

- ・国や都の動向を見つつ、府中市の方針に基づき感染の予防と速やかな対応をする。
- ・市教委、校医、保健所等と連携を図り、保護者に情報を提供するとともに児童が安心して登校できるような環境をつくる。
- ・教員の危機管理能力を高め、緊急事案に適切に対応できる校内体制を確立する。

#### ②いじめ、不登校への対応

- ・規範意識、思いやりの心を醸成する「あいさつ運動」を実施する。
- ・住吉のいじめ対応基本方針をもとに危機対応研修を実施する。
- ・校内支援委員会を中心とした教育相談体制を維持継続する。
- ・リソースルーム（4月よりサポートルーム）を活用した支援を行い、不登校の改善及び解消を図る。そのため、非常勤教員を配置し、学校支援員、子どもと家庭の支援員を活用する。
- ・ケースに応じて、教育センター、児童相談所、子育て支援タッチなどの外部機関やSC、SSWなどの人材を積極的に活用し、問題解決に当たる。
- ・情緒障害及び難聴・言語障害担当教員による障害理解教育を推進する。
- ・教員・保護者合同の障害理解研修を開催する。

#### ③防災教育の推進

- ・不審者、地震、火災、水害などあらゆる危機を想定した避難訓練を工夫し実施する。

- ・地域連携による避難所開設訓練を実施する。10月

### (3) 地域・保護者との連携にかかわって

#### ①府中版コミュニティスクールの推進

- ・「未来へつなぐ府中2020レガシー」を推進し、「ふるさと意識」を醸成する。
- ・避難所開設訓練、放課後算数教室の充実を図るとともに、指導体制強化のため地域人材の確保に努める。

#### ②小中連携一貫教育の推進

- ・実践交流を通して、中一ギャップの解消、不登校やいじめ対策、情報モラルの浸透、ICT（プログラミング学習を含む）の推進、外国語や道徳など新たな教科への対応等、教育課題解決のため教師の指導力を高める。